

政策研究フォーラム

第一部 「若者の起業を増やすにはどうしたらよいか」

# 若者の起業を増やすには どうしたらよいか

神奈川県 政策研究・大学連携センター  
岸本 真祐

2015年10月20日(火)

政策研究・大学連携センターフォーラム  
於：横浜情報文化センター6階 情文ホール

# 0. 本日の報告の全体像

2

(はじめに)「起業の多い社会の実現」はなぜ重要か

I. 起業の現状

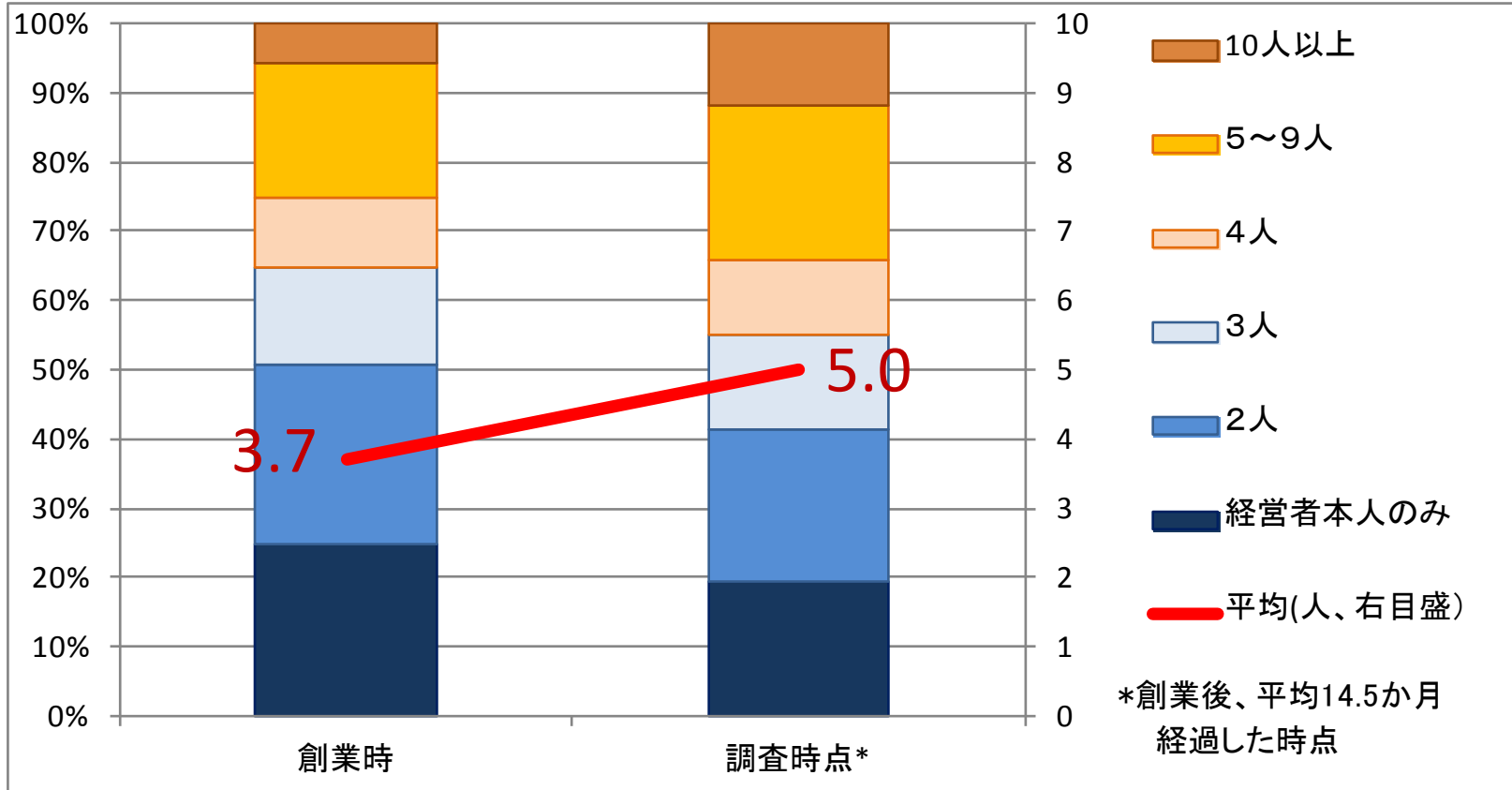
II. 若者の起業の障害となっている主な要因

III. 起業支援のための社会環境づくり(対応メニュー例)

# (はじめに)「起業の多い社会の実現」はなぜ重要か

- 起業は、新たな産業や就業機会の創出、経済成長をもたらす重要な要素。
- 将来の社会の担い手である若者の起業を支援することは特に重要。

創業企業の雇用創出力(従業員数別にみた比率)



(出所)日本政策金融公庫総合研究所『新規開業白書(2014年度版)』

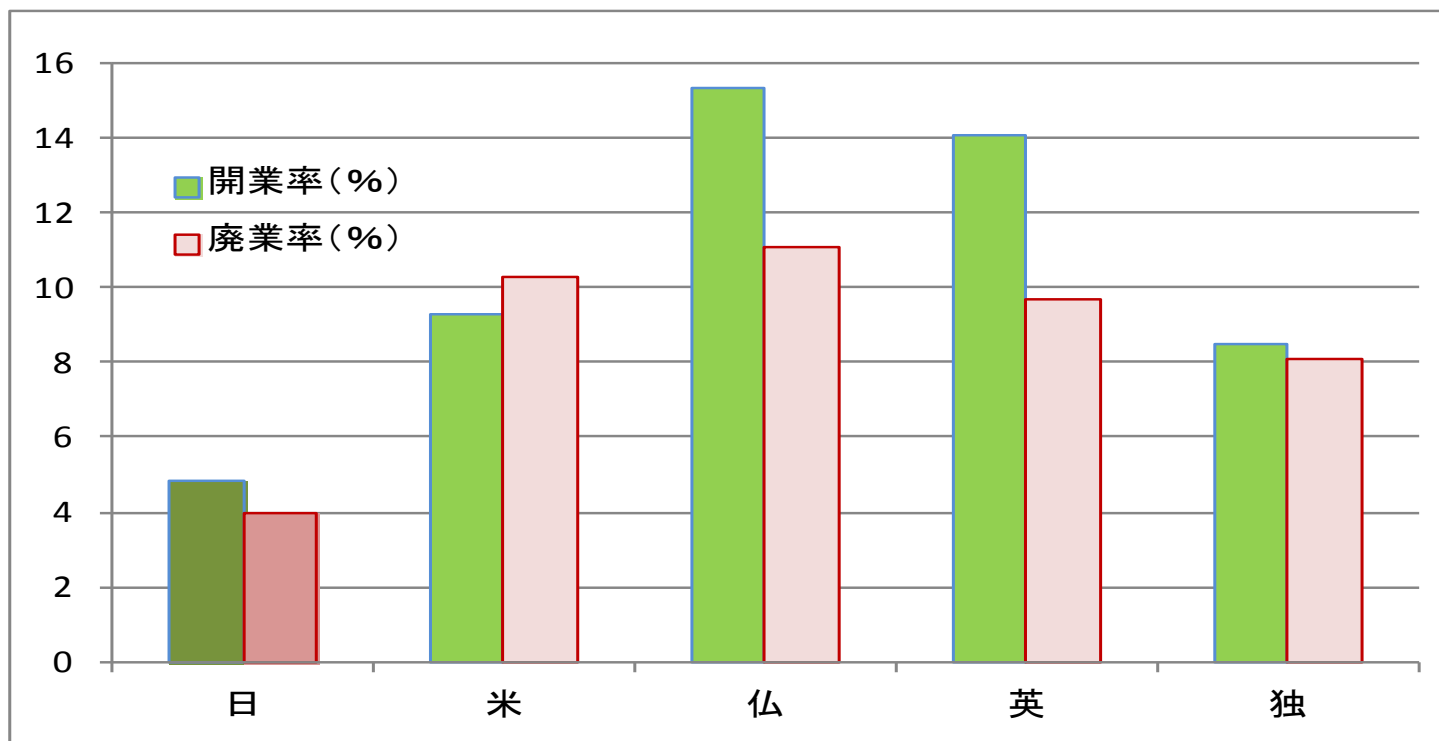
# I. 起業の現状

## (1) 開業率・廃業率

4

- 日本の開業・廃業率は国際的にみて低い(少産少死型)。

開業・廃業率の各国比較



(出所)日:厚生労働省『雇用保険事業年報(2013年)』

米:U.S. Small Business Administration, "The Small Business Economy (2012)"

仏:INSEE

英:Office for National Statistics, "Business Demography (2013)"

独:Statistisches Bundesamt『Unternehmensgründungen, -schließungen: Deutschland, Jahre, Rechtsform, Wirtschaftszweige』

# I. 起業の現状

## (1) 開業率・廃業率

5

- 当県は開業・廃業率が高い(人口密集地域では一般的に高い)。

開業・廃業率(都道府県別)

	開業率	廃業率		開業率	廃業率		開業率	廃業率
全国	1.9%	6.3%	富山県	1.3%	5.2%	島根県	1.5%	5.6%
北海道	1.9%	6.2%	石川県	1.6%	5.6%	岡山県	1.7%	5.5%
青森県	1.4%	6.5%	福井県	1.3%	5.5%	広島県	1.8%	6.0%
岩手県	1.8%	7.2%	山梨県	1.4%	5.6%	山口県	1.7%	5.8%
宮城県	2.1%	8.7%	長野県	1.5%	5.7%	徳島県	1.7%	5.6%
秋田県	1.5%	5.8%	岐阜県	1.5%	5.5%	香川県	1.6%	5.7%
山形県	1.3%	5.1%	静岡県	1.6%	5.8%	愛媛県	1.5%	5.5%
福島県	1.5%	6.0%	愛知県	2.0%	6.2%	高知県	1.6%	5.7%
茨城県	1.4%	5.4%	三重県	1.5%	5.4%	福岡県	2.2%	6.6%
栃木県	1.5%	5.7%	滋賀県	1.8%	5.6%	佐賀県	1.7%	5.4%
群馬県	1.5%	5.9%	京都府	1.7%	6.1%	長崎県	1.5%	5.5%
埼玉県	1.8%	6.0%	大阪府	2.0%	7.0%	熊本県	1.9%	5.9%
千葉県	1.9%	6.0%	兵庫県	2.1%	6.6%	大分県	1.8%	5.9%
東京都	2.0%	7.4%	奈良県	1.6%	5.7%	宮崎県	2.1%	6.0%
神奈川県	2.1%	6.5%	和歌山県	1.5%	5.6%	鹿児島県	1.9%	5.8%
新潟県	1.4%	5.1%	鳥取県	1.7%	5.4%	沖縄県	2.6%	7.2%

(出所)総務省「経済センサス—基礎調査」(2009年)、「経済センサス-活動調査」(2012年)

# I. 起業の現状

## (1) 開業率・廃業率

6

- ・ 県内市町村別にみると、政令市や県央地域などでは開業率・廃業率が相対的に高い一方、県西部では低い先が多い。

開業・廃業率(市町村別)

	開業率	廃業率		開業率	廃業率		開業率	廃業率
神奈川県	2.1%	6.5%	秦野市	1.9%	6.2%	二宮町	1.5%	6.0%
横浜市	2.3%	6.9%	厚木市	2.2%	6.4%	中井町	1.6%	5.3%
川崎市	2.1%	6.3%	大和市	2.6%	6.9%	大井町	1.4%	6.1%
相模原市	2.2%	6.5%	伊勢原市	1.5%	5.0%	松田町	1.3%	5.4%
横須賀市	1.9%	6.4%	海老名市	2.4%	6.5%	山北町	1.0%	4.1%
平塚市	1.7%	5.7%	座間市	1.6%	6.3%	開成町	1.1%	3.9%
鎌倉市	2.4%	6.4%	南足柄市	1.3%	5.5%	箱根町	1.4%	5.5%
藤沢市	2.6%	6.1%	綾瀬市	1.6%	5.2%	真鶴町	0.9%	4.1%
小田原市	1.8%	5.8%	葉山町	1.4%	6.1%	湯河原町	1.4%	5.8%
茅ヶ崎市	2.3%	6.2%	寒川町	2.0%	6.1%	愛川町	1.0%	5.8%
逗子市	1.8%	5.7%	大磯町	1.2%	4.9%	清川村	2.2%	5.1%
三浦市	1.3%	4.9%						

(出所)総務省「経済センサス—基礎調査」(2009年)、「経済センサス-活動調査」(2012年)

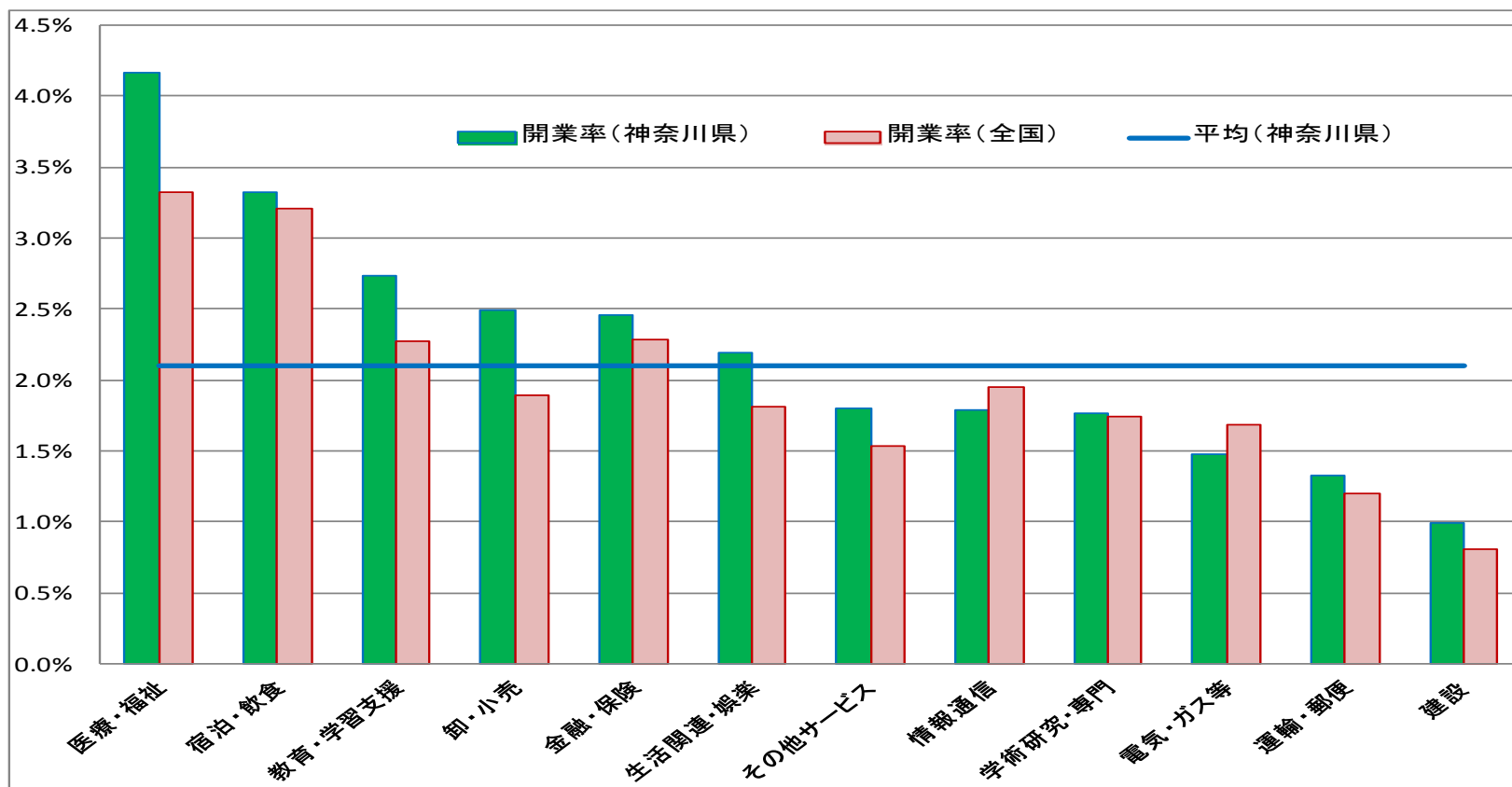
# I. 起業の現状

## (1) 開業率・廃業率

7

- 業種別にみると、①医療・福祉、②宿泊・飲食、③教育・学習支援、④卸・小売等の開業率が高い(全国も概ね同じ傾向)。

業種別にみた開業率(神奈川県・全国、2009-12年、%)



(出所)総務省「経済センサス—基礎調査」(2009年)、「経済センサス-活動調査」(2012年)

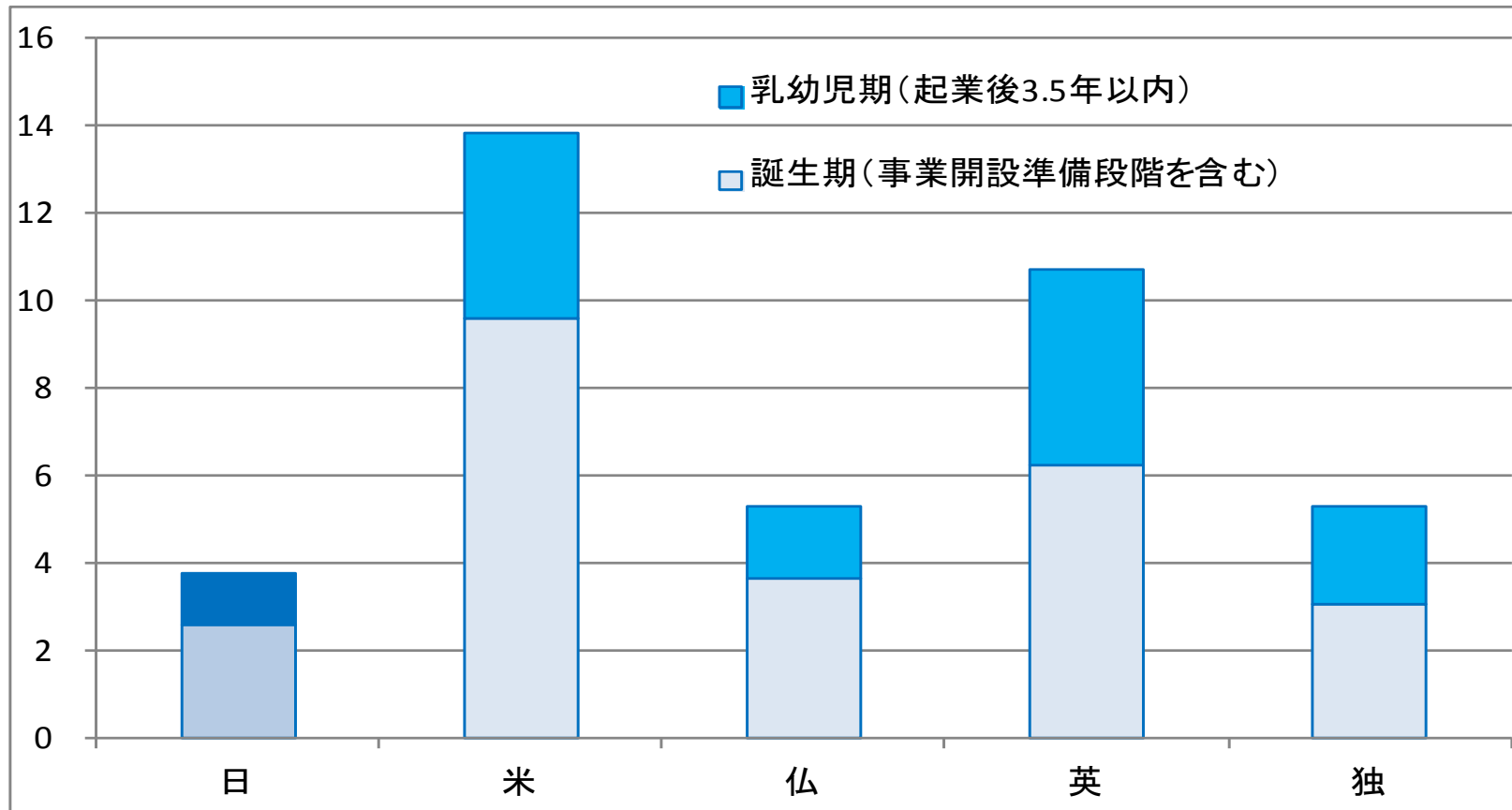
# I. 起業の現状

## (2) 起業活動の評価

8

- 日本の起業活動は主要国の中で低い水準にある。

総合起業活動指数(TEA)の国際比較





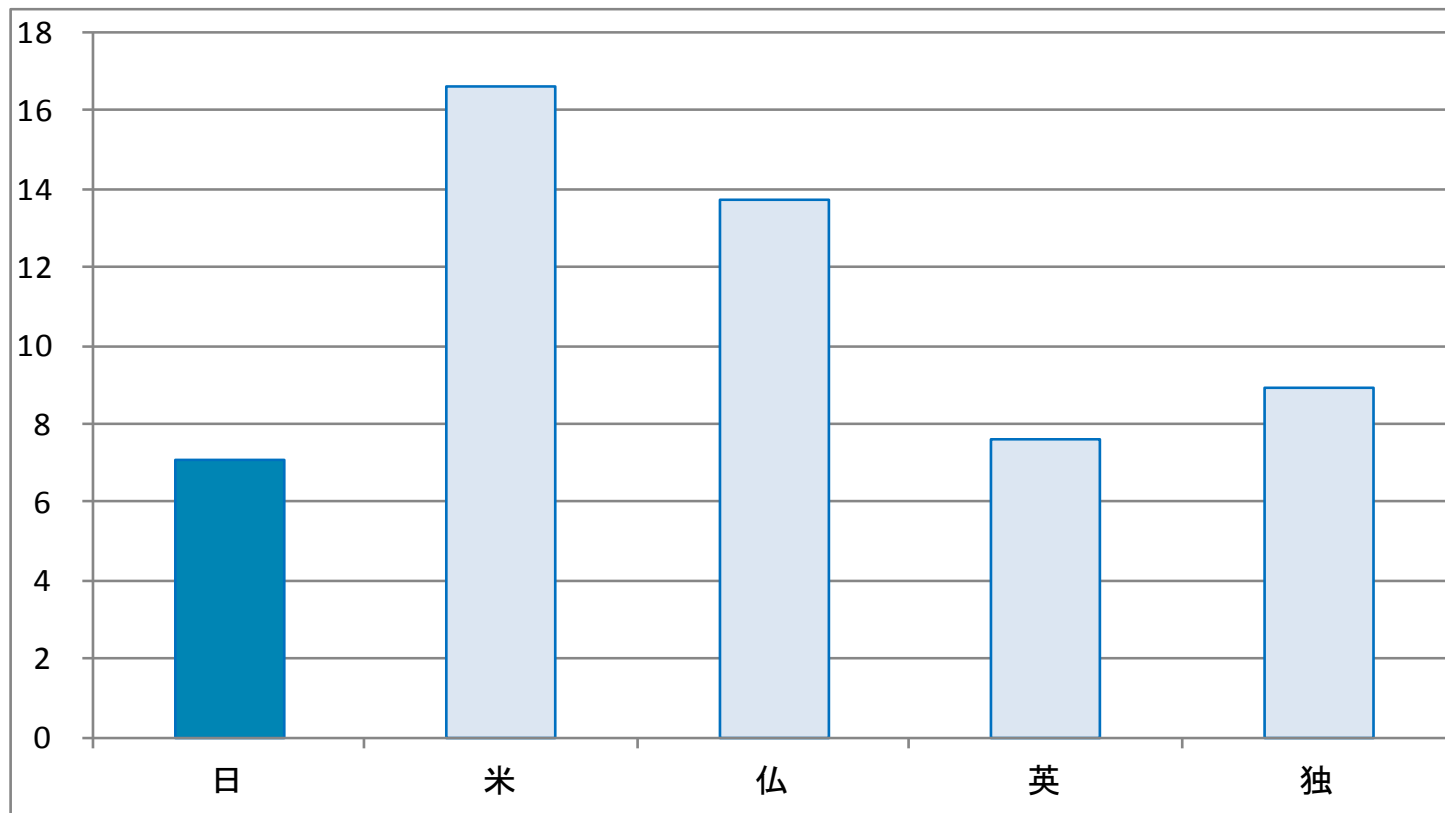
# I. 起業の現状

## (2) 起業活動の評価

9

- ・ 起業計画率(将来の起業を計画している人口割合)も主要国の中では低い。

起業計画率の国際比較(%)

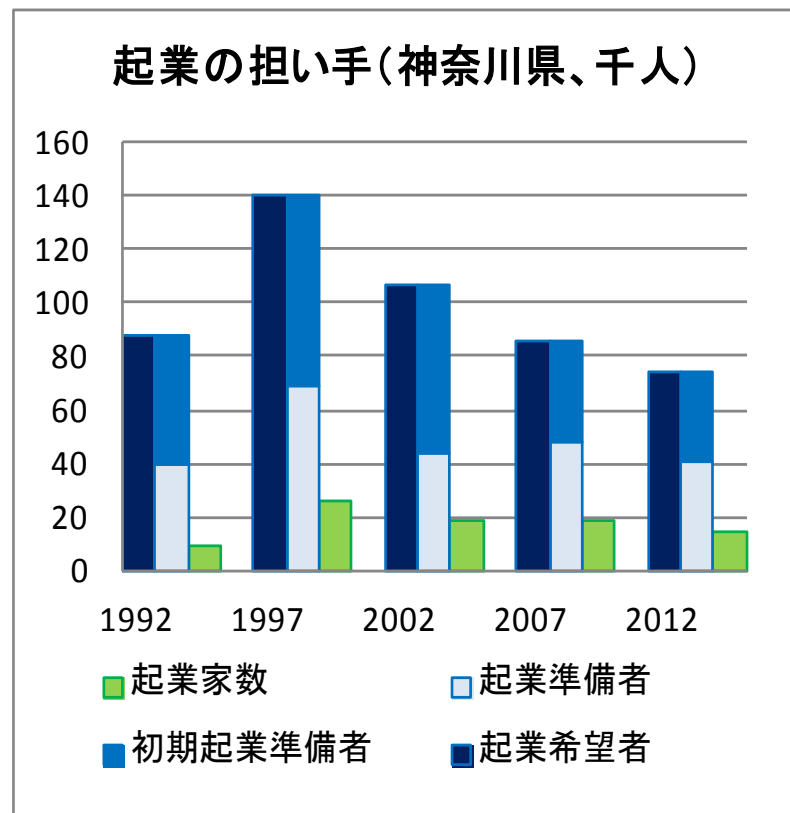
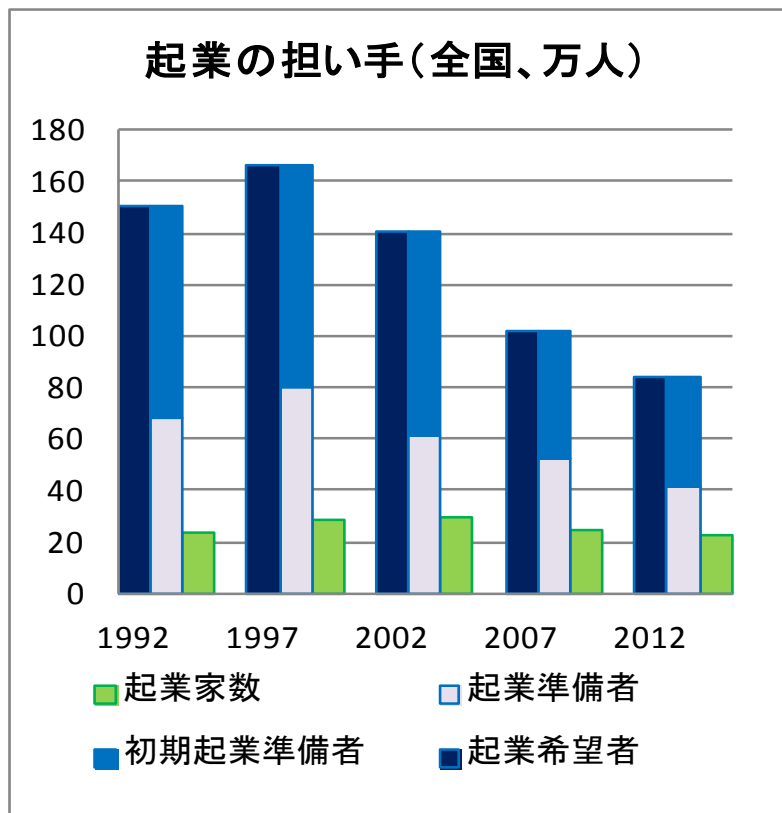


出所:ベンチャーエンタープライズセンター「起業家精神に関する調査」(平成26年3月)  
(Global Entrepreneurship Monitor 2013データ)

# I. 起業の現状

## (2) 起業活動の評価

- 「起業希望者」及び「起業家」は、全国・当県ともに減少傾向にある。



「起業希望者」とは、有業者の転職希望者のうち、「自分で事業を起こしたい」、又は、無業者のうち、「自分で事業を起こしたい」と回答した者をいう。

「起業準備者」とは、起業希望者のうち、「(仕事を)探している」、又は、「開業の準備をしている」と回答した者をいう。

「初期起業準備者」とは、起業希望者のうち起業準備者ではない者をいう。

「起業家」とは、過去1年間に職を変えた又は新たに職についた者のうち、現在は自営業主(内職者を除く)となっている者をいう。

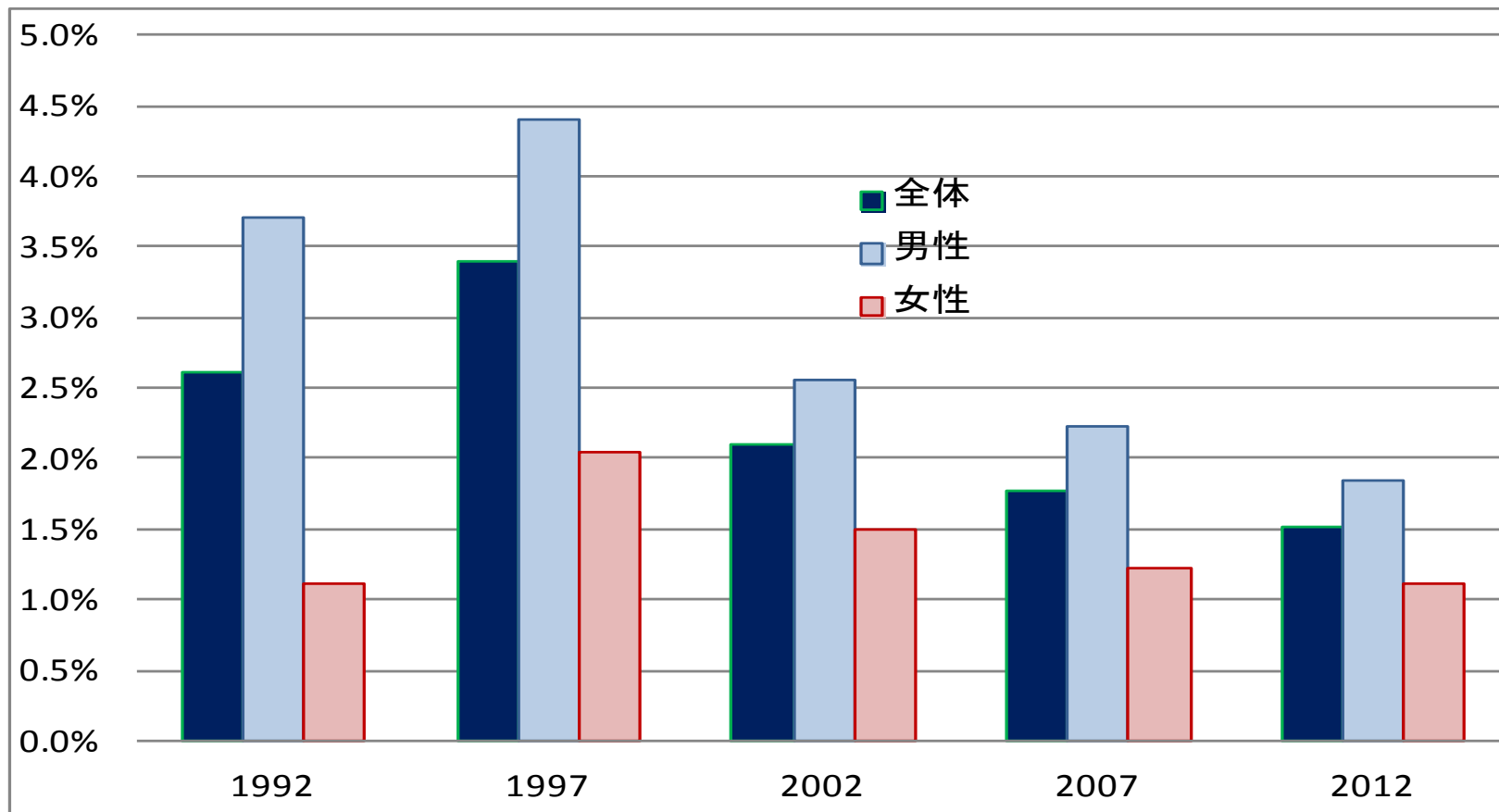
ただし、92年及び97年については、1年以内の就業異動のデータが存在しないため、2年以内までの人数を含む。

# I. 起業の現状

## (2) 起業活動の評価

- 若者世代だけを見ても「起業希望者」の比率は低下している。

若者就業者数に占める起業希望者の比率(全国、%)



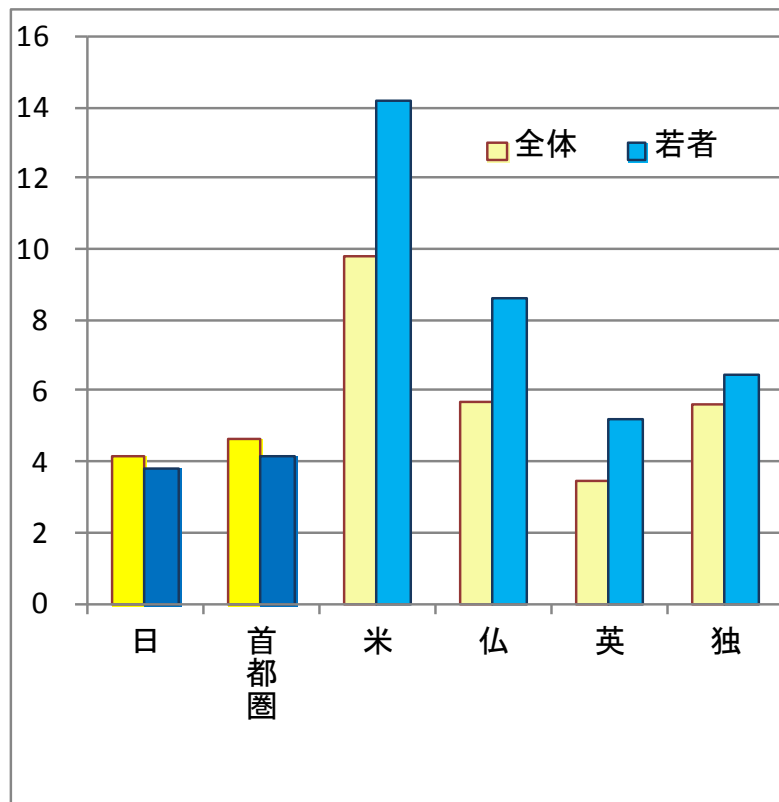
# I. 起業の現状

## (2) 起業活動の評価

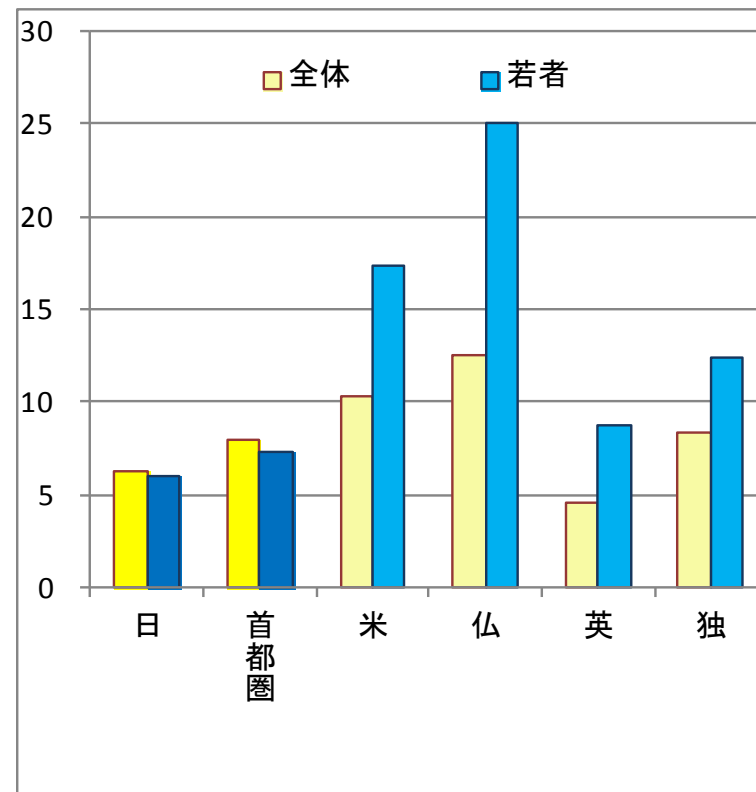
12

- 若者は、他国では起業に相対的に前向きだが、日本では他世代と同様消極的(首都圏に絞っても同様の傾向)。

起業に向けて準備を始めている(%)



3年以内に起業する見込み(%)



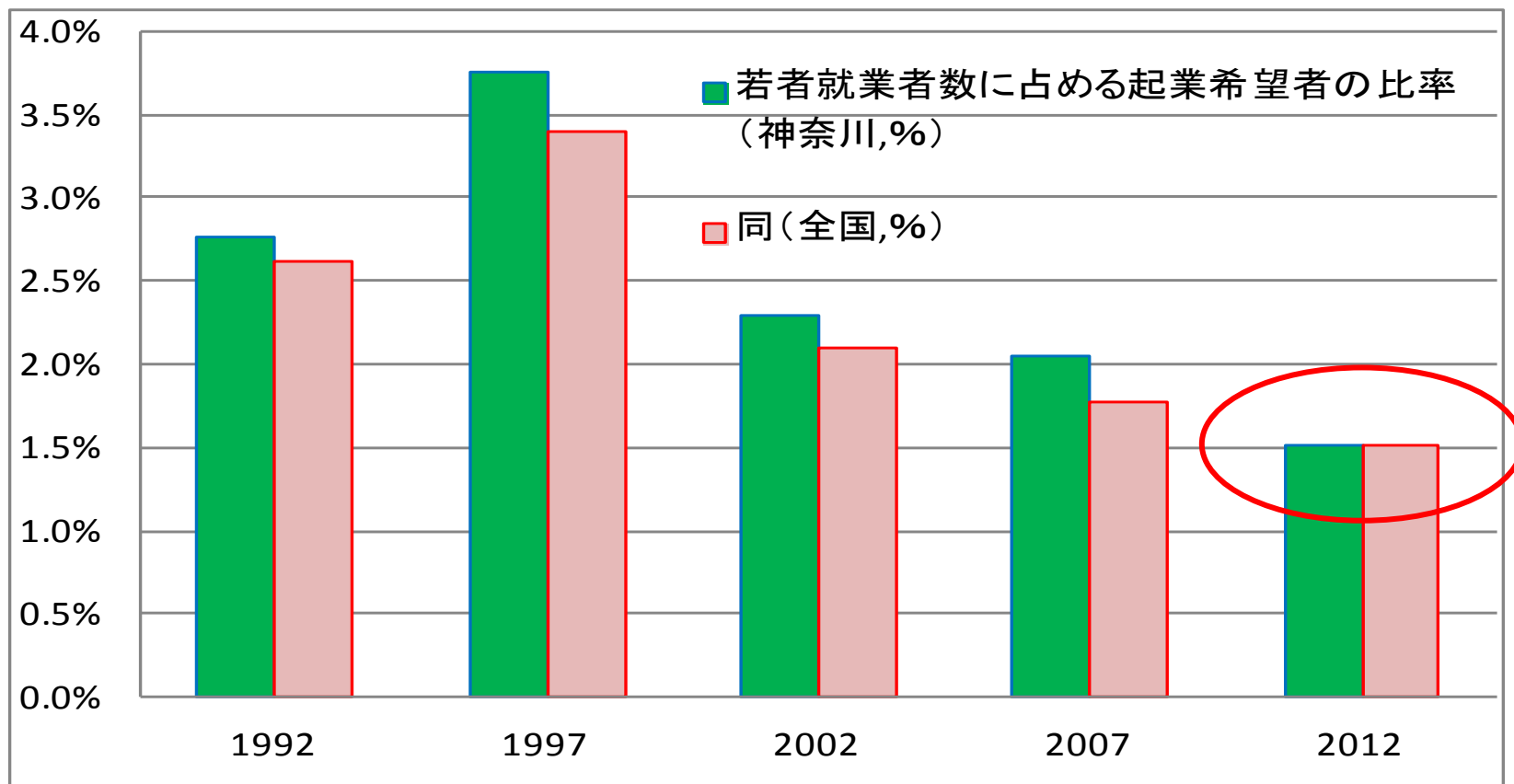
# I. 起業の現状

## (2) 起業活動の評価

13

- 起業の盛んだった当県でも、若者の起業意欲が落ちてきている傾向にある。

若者の起業意欲(全国と神奈川県と比較)



(出所)総務省「就業構造基本調査」(1992-2012年データ)

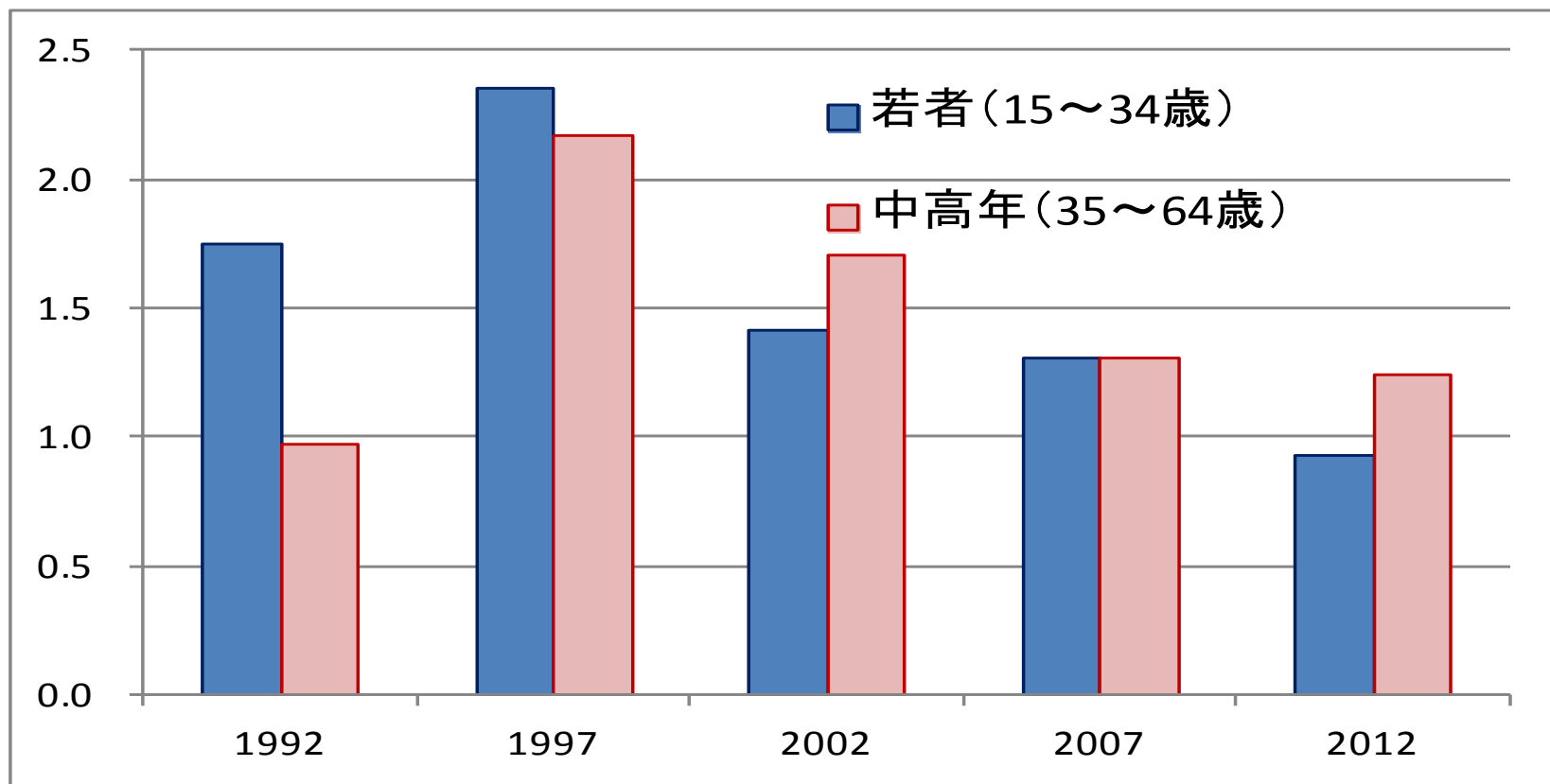
# I. 起業の現状

## (2) 起業活動の評価

14

- ・ 以前は若者の方が中高年より起業に前向きであったものが、2000年代以降は逆転してる。

世代別にみた起業希望者比率(起業希望者/総人口)(神奈川県、%)



(出所)総務省「就業構造基本調査」(1992-2012年データ)、国勢調査(1990-2010年データ)

## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要因

15

### 1 Entrepreneurial spirit

起業家精神が弱い(「起業」を知る機会が少ない)

### 2 Risk

事業に失敗したときの「人生のコスト」が大きい

### 3 Resource

事業資金、ノウハウや人脈が足りない

### 4 Return

金銭的・非金銭的な見返りが少ない

## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要因

- ・ 起業が少ない背景として上記要因を挙げる先が多い。
- ・ 日本では「そこそこ有能な人」ほど、起業よりも安全な就職を選びがちである。

開業率が低い理由(複数回答、%)

		全体平均		うち若者	
		順位	回答率	順位	回答率
Entrepreneurial spirit	安定的な雇用を選好	4	29.6	1	32.9
	「起業」の認知度が低い	6	23.8	4	27.5
	起業家教育が不足	5	24.0	7	23.5
	チャレンジ精神が弱い	9	13.4	8	15.9
	新規事業機会が少ない	10	10.4	10	10.7
Risk	サーフティネットが未整備	2	33.8	3	29.7
	失敗時に再就職が困難	7	23.4	6	25.6
Resource	事業開始費用が嵩む	3	30.8	5	26.4
	起業の手続きが複雑	8	16.0	9	15.1
Return	生活が不安定化	1	36.9	2	31.0
	起業家の社会的評価が低い	11	9.3	11	9.7



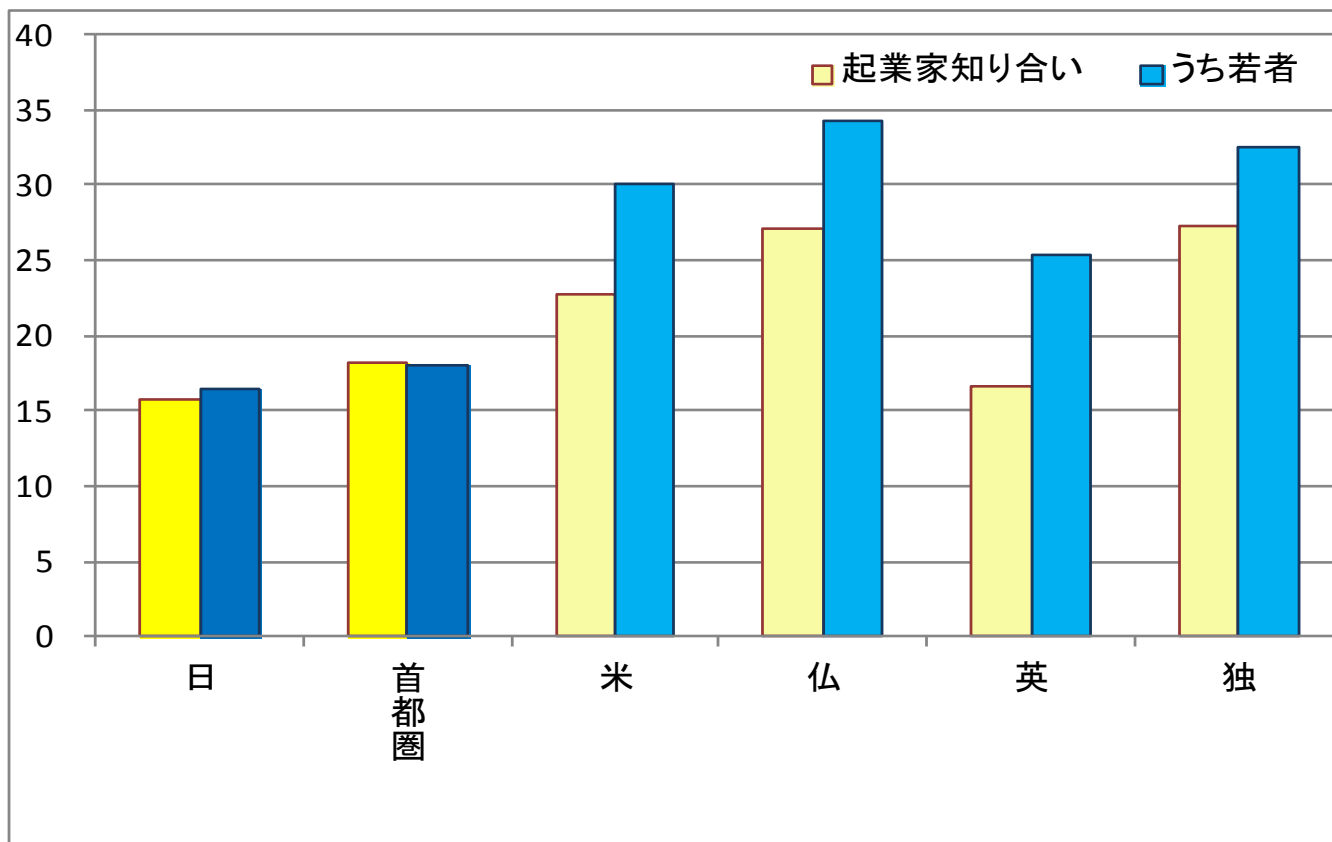
## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

### (1) Entrepreneurial spirit～起業家精神が弱い～

17

- ・ そもそも起業家の数が少なく、起業家のロールモデルが身近にない。（「若者」、「首都圏」でみても概ね同様の傾向）。

起業家の知り合いがいる（2008-13年、％）



(出所)Global Entrepreneurship Monitor APS (2008-2013年データ)

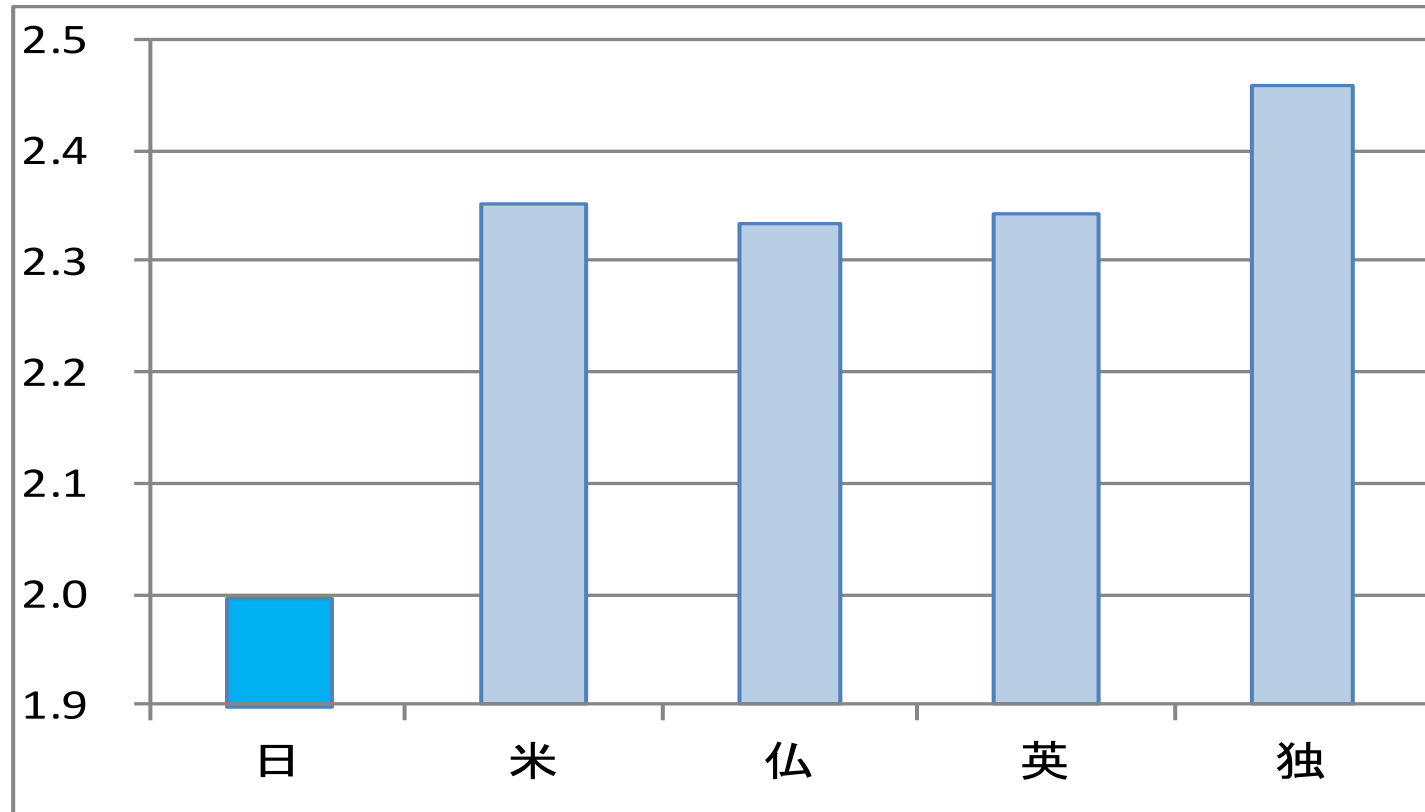
## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

### (1) Entrepreneurial spirit～起業家精神が弱い～

18

- ・ 日本は、他の先進主要国と比べて「起業家教育は十分なされている」との評価は低い。

起業家教育は十分なされているか(5段階評価)



(出所)Global Entrepreneurship Monitor NES (2011年データ)

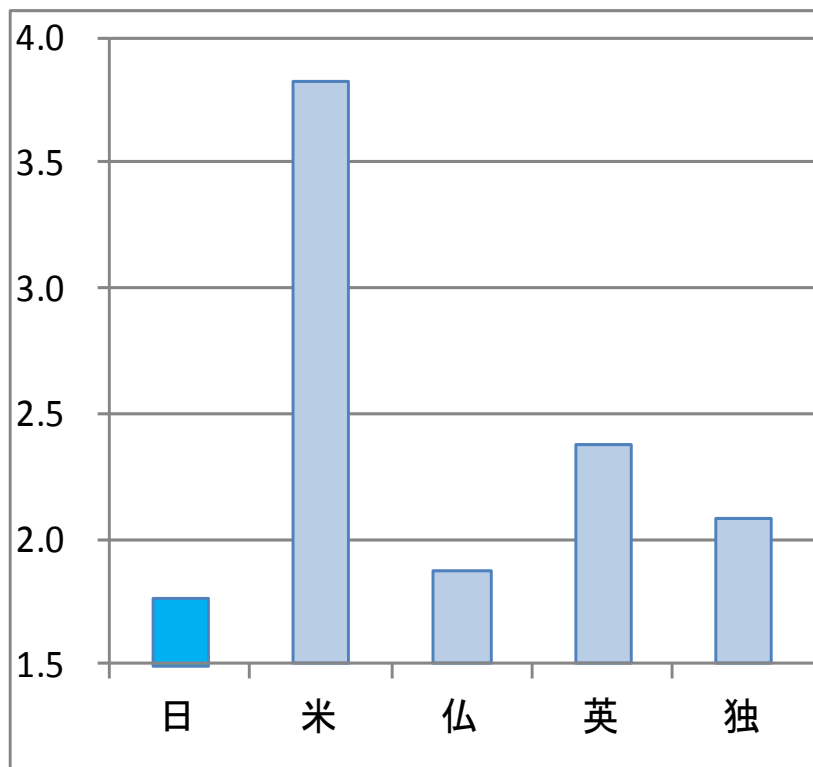
## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

### (1) Entrepreneurial spirit～起業家精神が弱い～

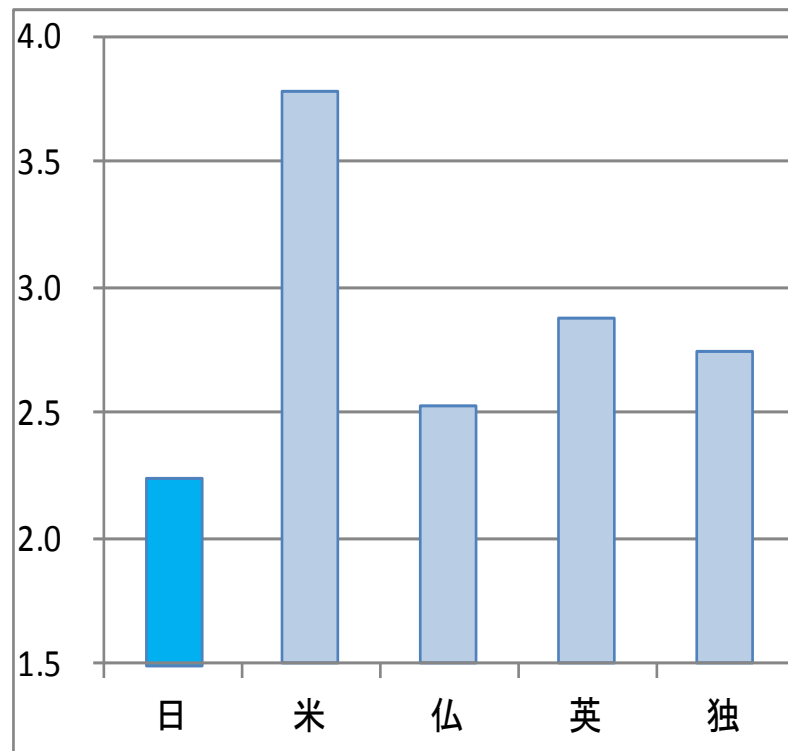
19

- 日本は、他の先進主要国と比べて「起業家教育は十分なされている」との評価は低い。

起業のためのリスクテイクは望ましいか  
(5段階評価)



創造性の発揮は望ましいことか  
(5段階評価)



(出所)Global Entrepreneurship Monitor NES (2011年データ)

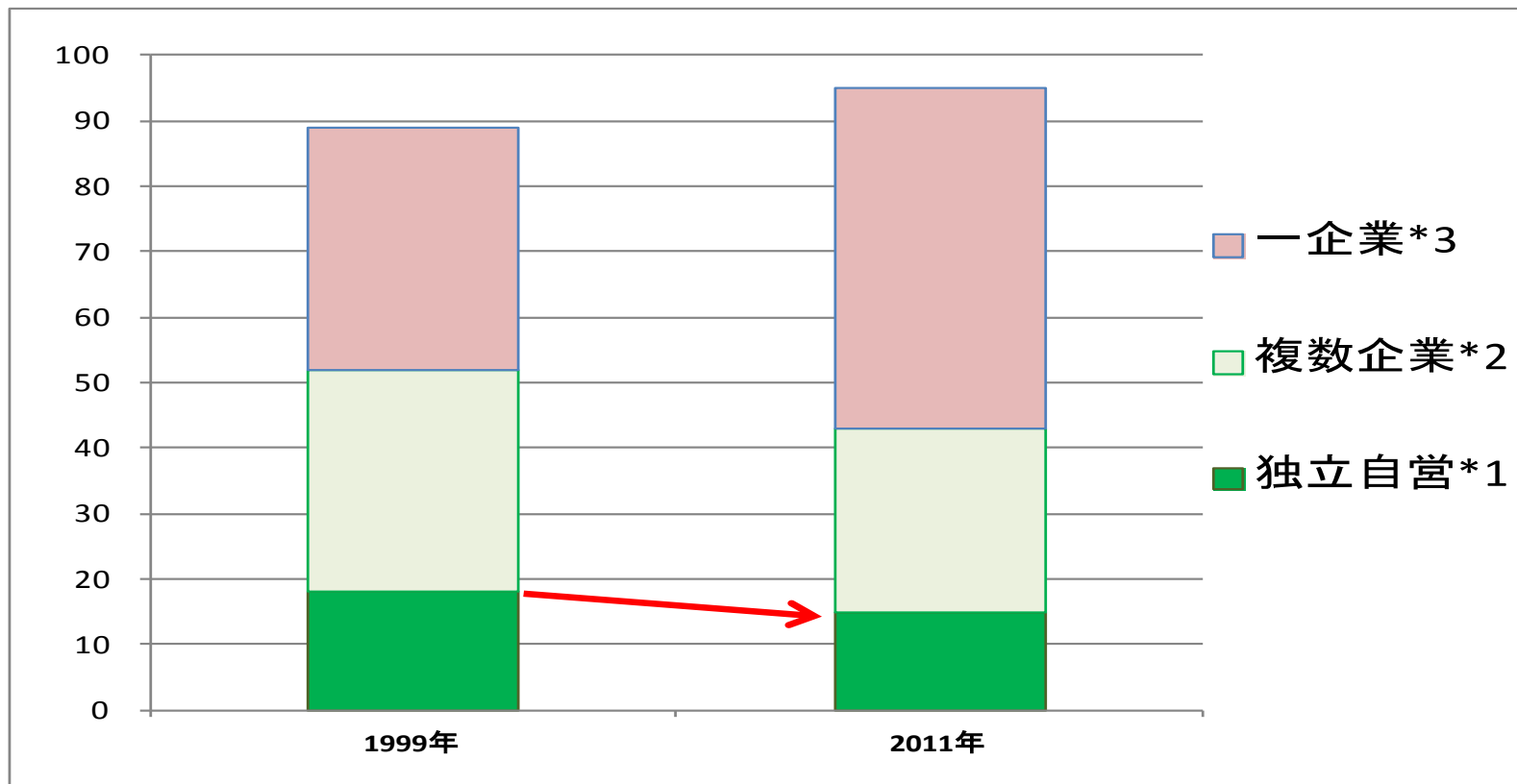
## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

### (1) Entrepreneurial spirit～起業家精神が弱い～

20

- 「独立して仕事をするキャリア」を望ましいとする者の割合は、2割以下に留まっている。

望ましいキャリア形成(20歳代、%)



出所:(独)労働政策研究・研修機構「勤労生活に関する調査」(1999年、2011年)

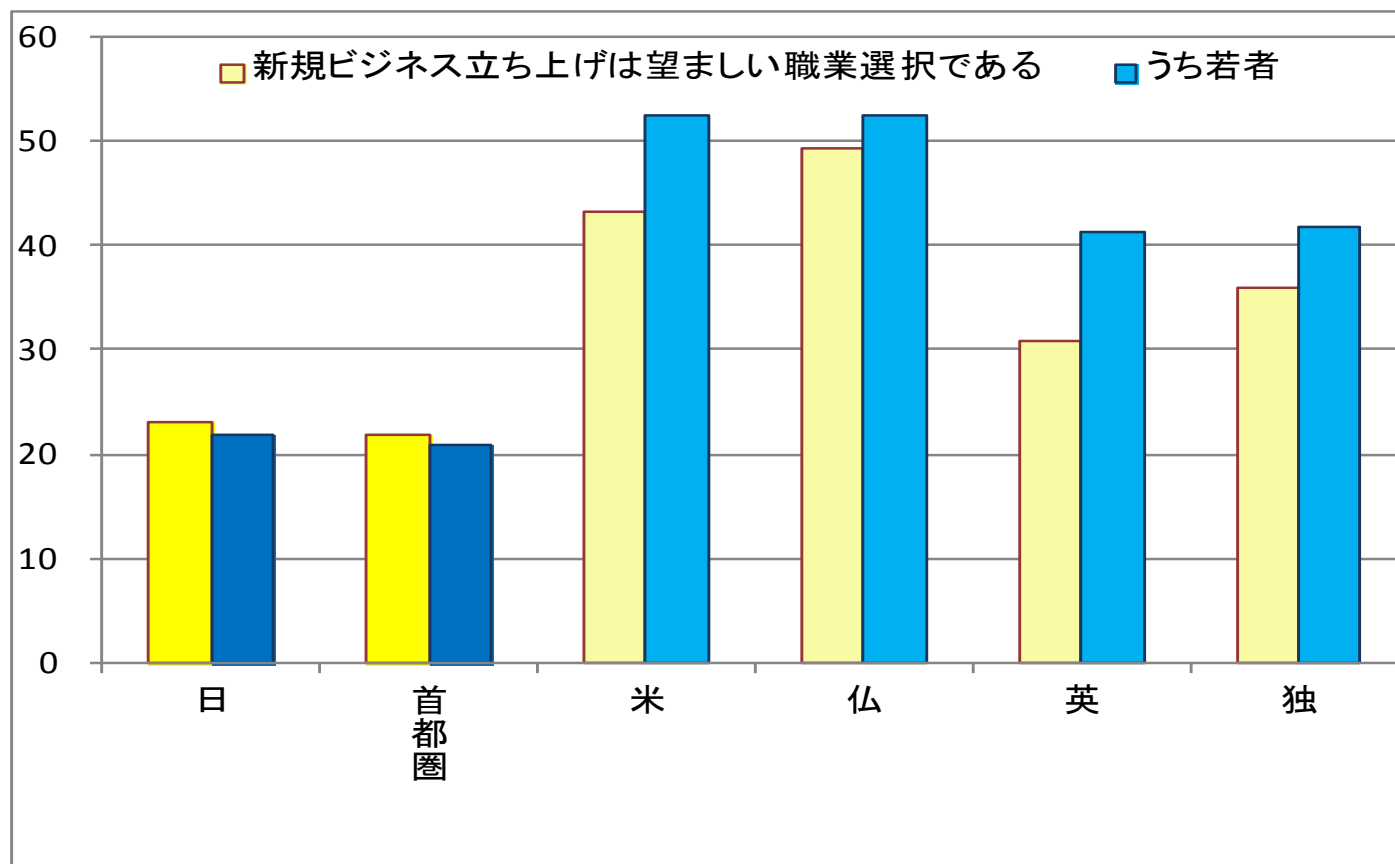
## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

### (1) Entrepreneurial spirit～起業家精神が弱い～

21

- 若者を含め、「起業」が職業の選択肢とみられていない。

起業が職業の選択肢となっているか(2008-13年、%)



(出所)Global Entrepreneurship Monitor APS (2008-2013年データ)

## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要因

### (2) Risk～失敗したときの「人生コスト」が大きい～

22

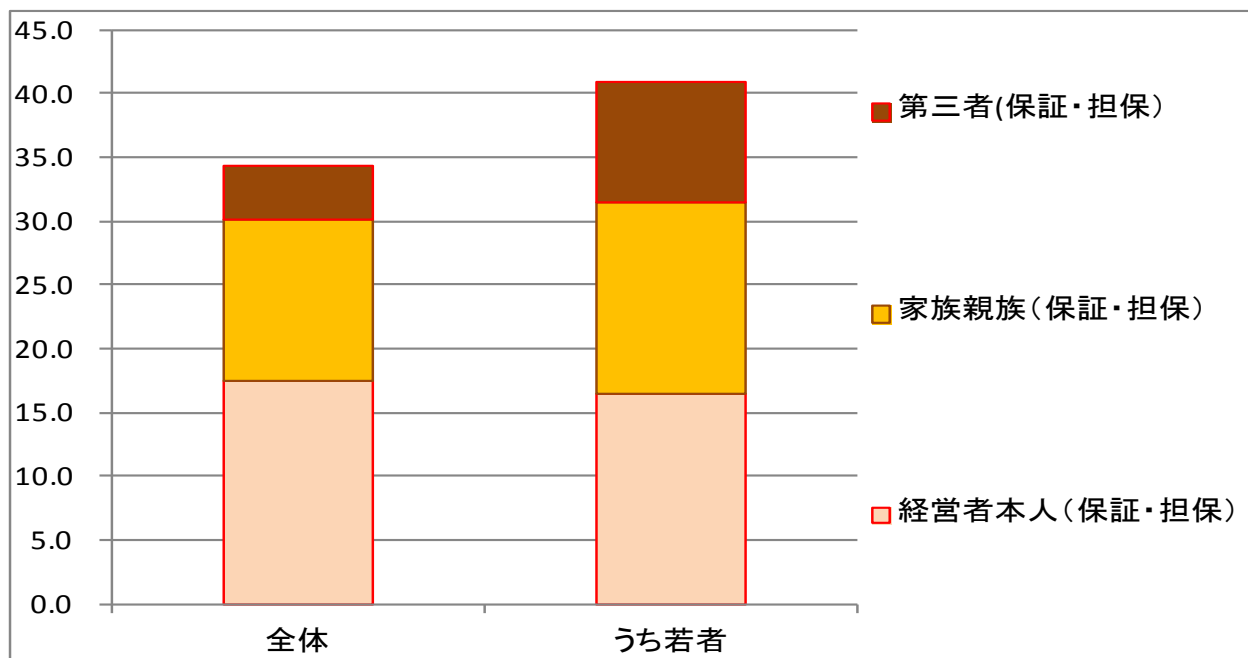
#### ① 就業が困難

- ・ 若者を含め、「起業」が職業の選択肢とみられていない。

#### ② 借金等が残る

- ・ 個人としての借金が残ったり、保証人に迷惑をかけたりする。
- ・ 特に若者は自己資金等が少なく、家族・第三者の保証・担保を求められる。

個人保証や担保の提供を求められる割合(%)



(出所)中小企業白書(2014年)

## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

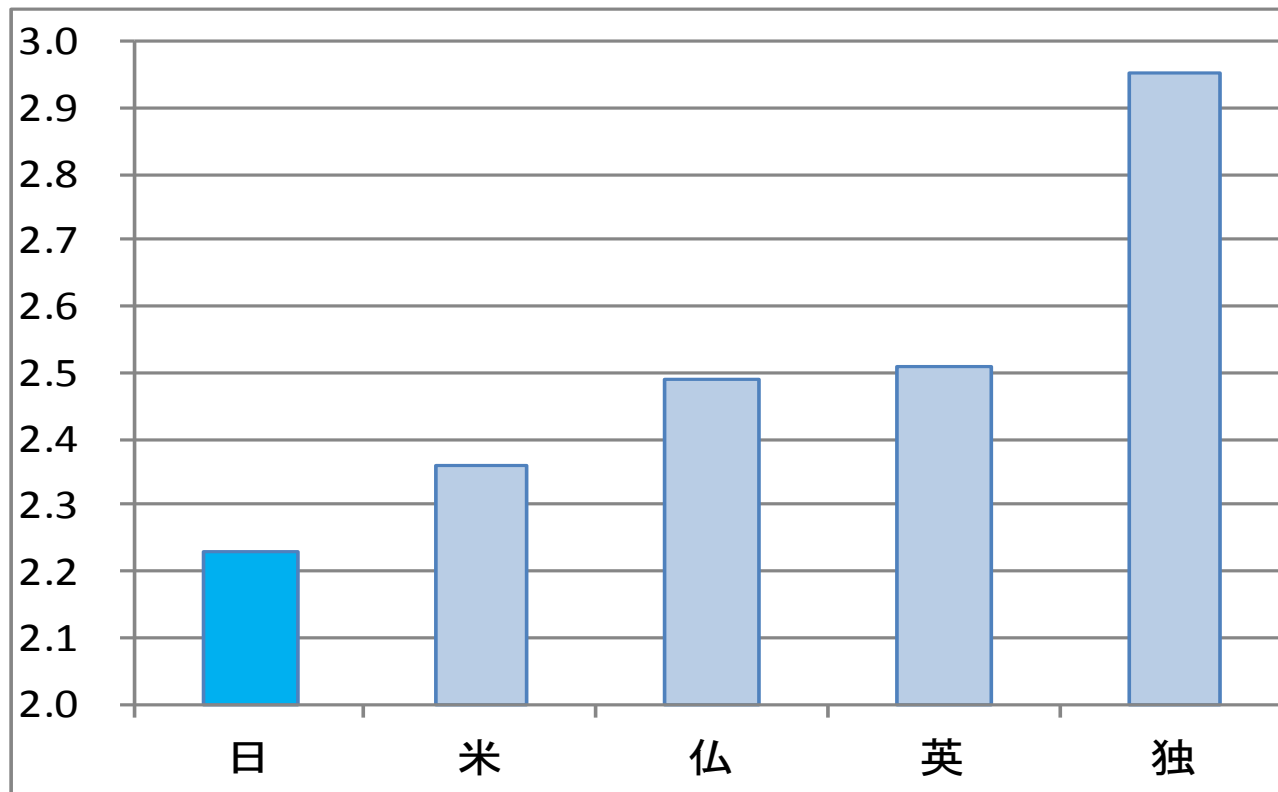
### (3)Resource～事業資金、ノウハウ、人脈の不足～

23

#### ①事業資金の調達

- ・「事業資金の調達が思うようにできない」と訴える先は依然多い。

起業家の資金調達環境の評価(5段階評価)(2011年)



(出所)Global Entrepreneurship Monitor NES (2011年データ)

## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

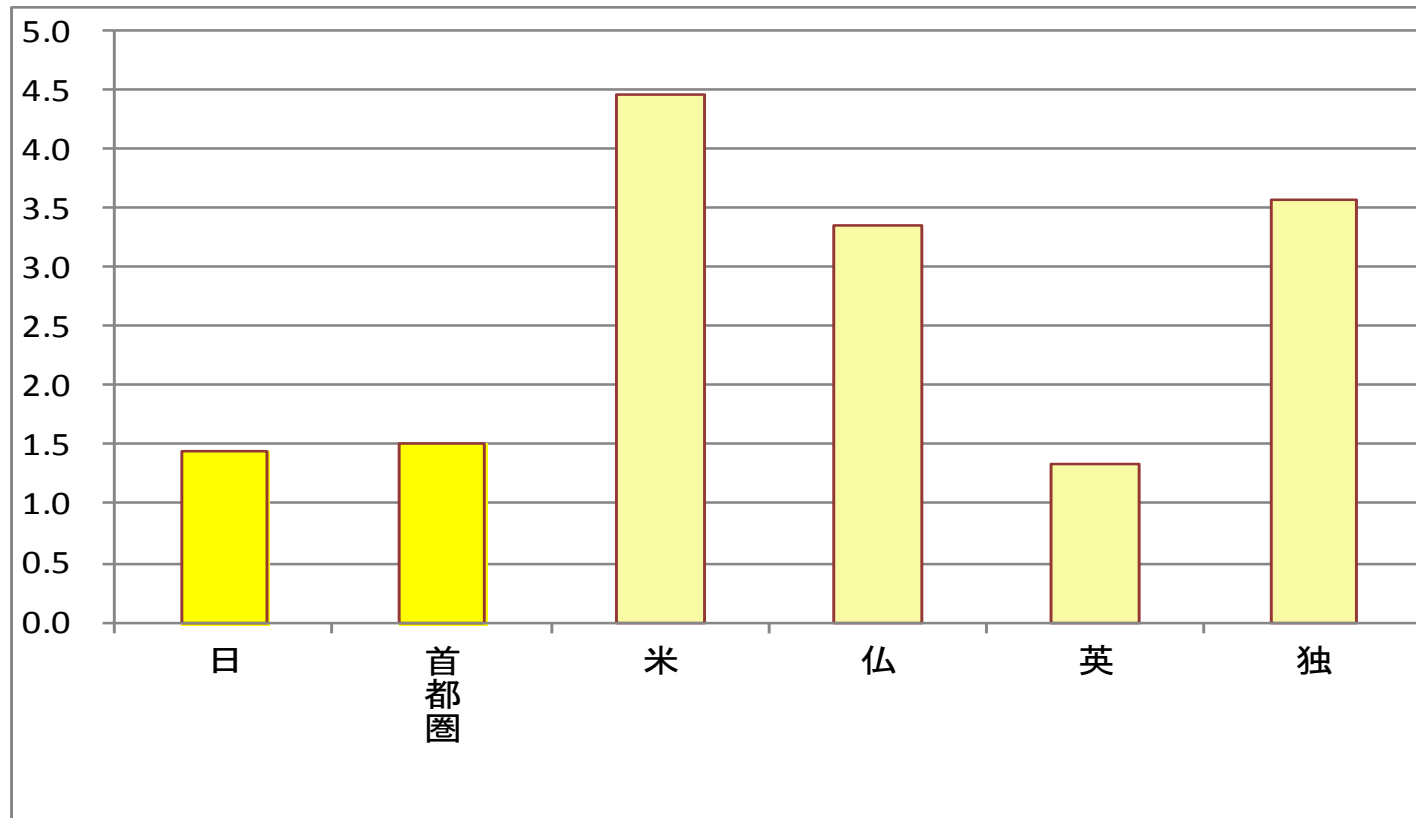
### (3)Resource～事業資金、ノウハウ、人脈の不足～

24

#### ①事業資金の調達

- ・ 起業家に投資する個人(エンジェル)が身近にいない。

起業家に資金を提供したことがある(2008-13年、%)



(出所)Global Entrepreneurship Monitor APS (2008-2013年データ)



## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

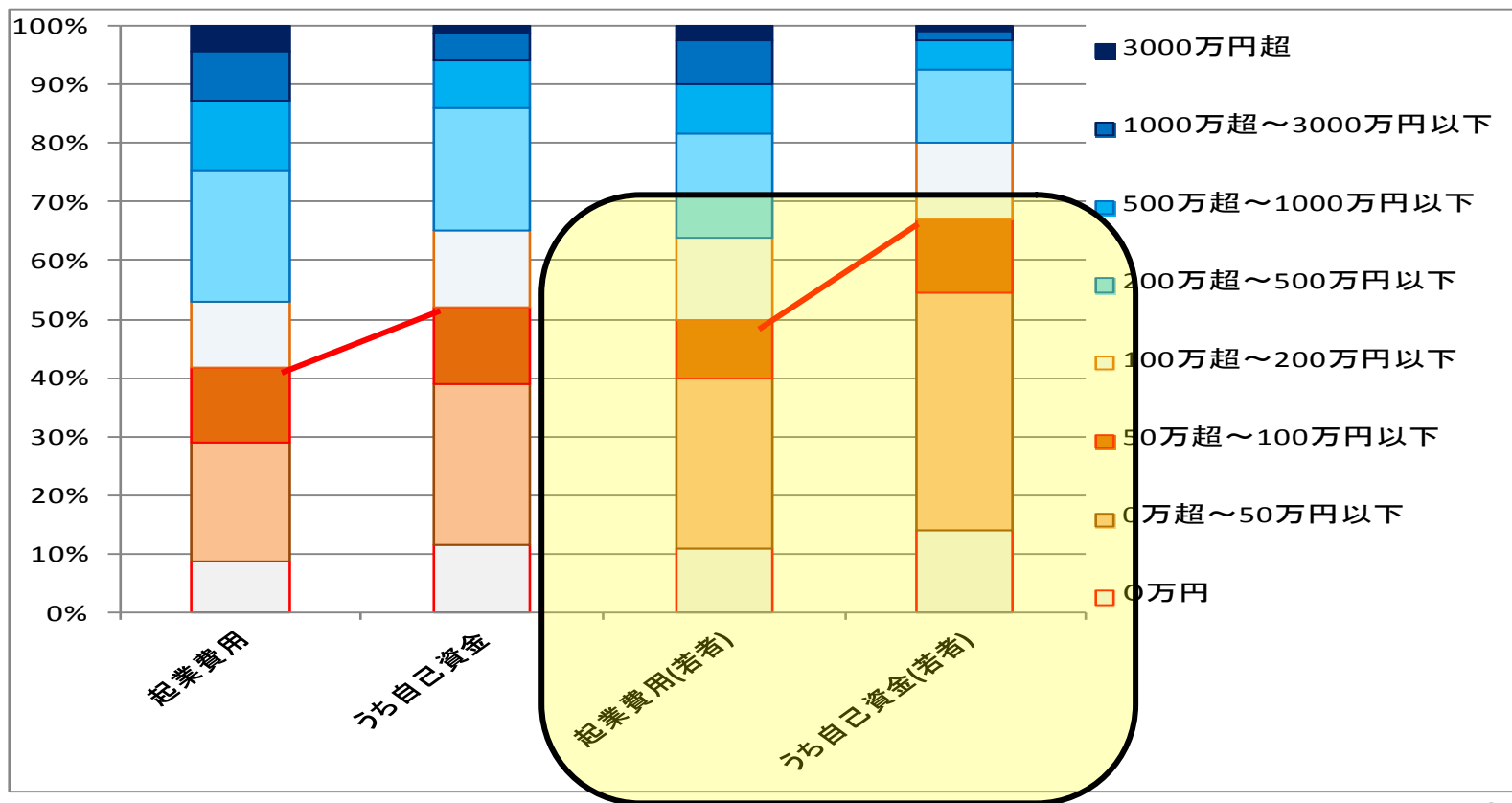
### (3) Resource～事業資金、ノウハウ、人脈の不足～

25

#### ① 事業資金の調達

- 若者は、起業時には金融機関借入にある程度頼らざるを得ない。

起業に掛かった費用、自己資金(2008-13年、%)



(出所)中小企業白書(2014年)

## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

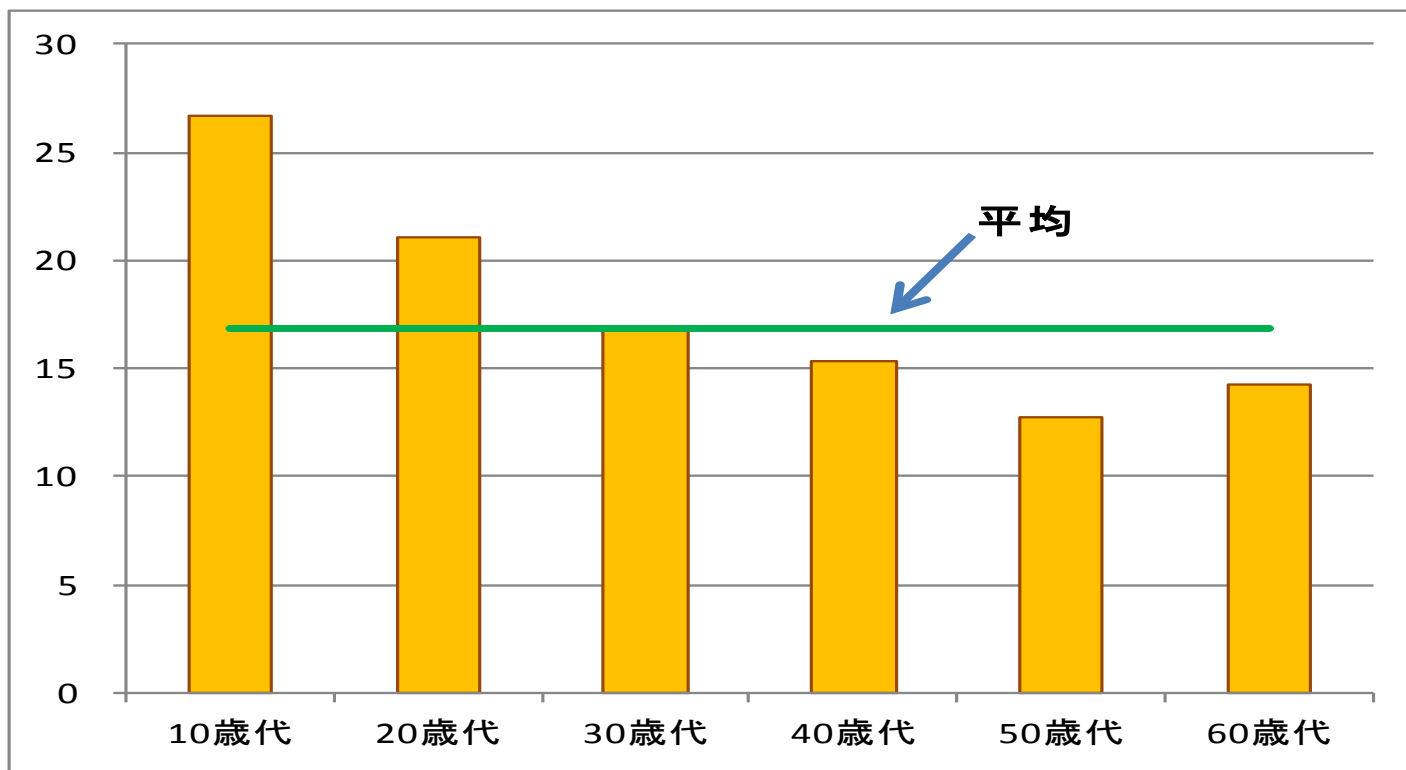
### (3)Resource～事業資金、ノウハウ、人脈の不足～

26

#### ①事業資金の調達

- ・若い世代ほど「起業しない理由」の一つとして「外部資金の調達がむずかしそうだから」としている比率が高い

外部資金の調達が困難(%)



(出所)日本政策金融公庫総合研究所『新規開業白書(2014年度版)』

## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

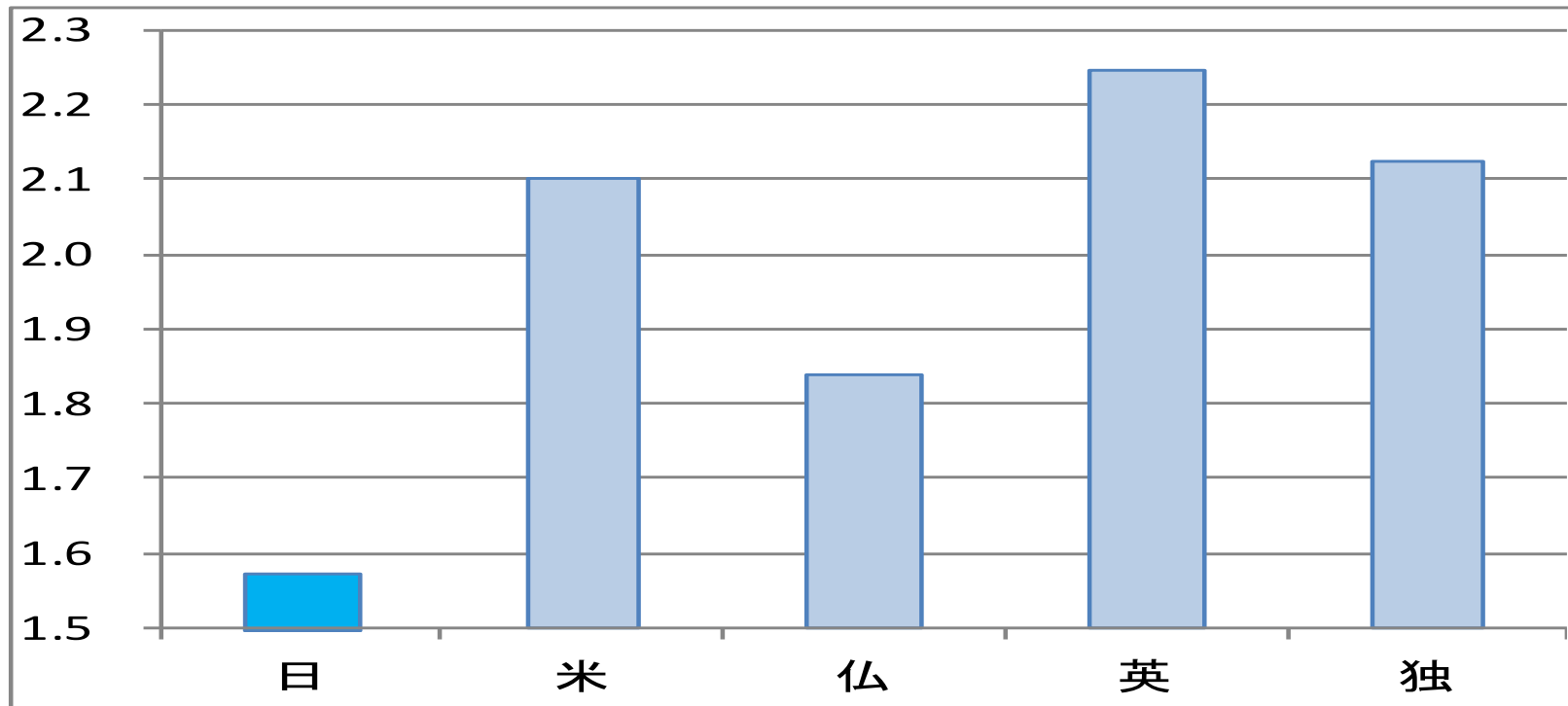
### (3)Resource～事業資金、ノウハウ、人脈の不足～

27

#### ②ノウハウ面：経理、法令、技術、マーケティング等の知識不足 (メンターやアドバイザーの不在)

- 日本では「知識・能力・経験不足」から、起業に躊躇する傾向が強い。

起業に必要な知識経験を有しているか(5段階評価)(2011年)



(出所)Global Entrepreneurship Monitor NES (2011年データ)

## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

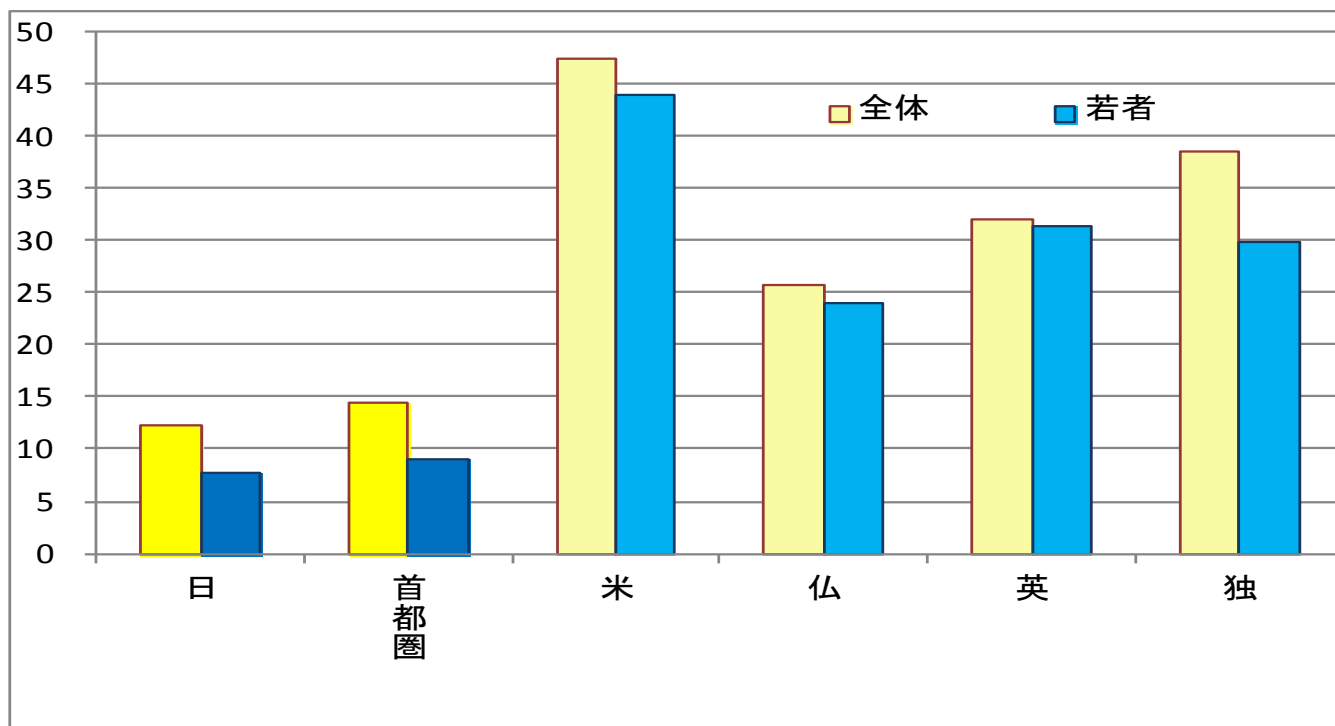
### (3)Resource～事業資金、ノウハウ、人脈の不足～

28

#### ②ノウハウ面：経理、法令、技術、マーケティング等の知識不足 (メンターやアドバイザーの不在)

- ・ 特に若者は、他世代よりも「知識・能力・経験が不足している」と強く認識。

起業に必要な知識・能力・経験がある(2008-13年、%)



(出所)Global Entrepreneurship Monitor APS (2008-2013年データ)

## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主な要因

### (3)Resource～事業資金、ノウハウ、人脈の不足～

29

#### ②ノウハウ面：経理、法令、技術、マーケティング等の知識不足 (メンターやアドバイザーの不在)

- 先輩起業家等の助言、他の起業家との交流、セミナー・講演会等を活用。

①開業時に利用した支援策、及び

②開業時にあったらよかったと思う支援策(複数回答、%)

		①開業時に実際に利用した支援策		②開業時にあったらよかったと思う支援策	
		順位	回答率	順位	回答率
Resource	先輩起業家・専門家の助言	2	21.2	6	14.3
	低金利融資・税制優遇	3	19.5	1	40.2
	他の起業家との交流	4	18.6	3	23.1
	販路紹介	5	17.9	5	17.1
	セミナー・講演会	6	17.1	7	13.2
	金融機関による経営指導	7	7.6	4	17.3
	経営コンサルタント紹介	8	5.0	8	10.0
	特になし	1	39.6	2	24.3

(出所)日本政策金融公庫総合研究所『新規開業白書(2014年度版)』

## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要因

### (3)Resource～事業資金、ノウハウ、人脈の不足～

30

#### ③販路等：市場・顧客開拓の弱さ

- ・「販路開拓」に苦勞するケースは多い。

新規開業企業が苦勞していること(複数回答、%)

		順位	回答率
Resource	顧客・販路の開拓	1	44.2
	資金調達	2	39.7
	従業員の確保	3	28.1
	人材育成・従業員教育	4	25.1
	事務知識(財務、税務、法務)の不足	5	25.3
	経営にかかる相談相手の不足	6	11.9
	製品・商品・サービスの企画・開発	7	11.7

## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

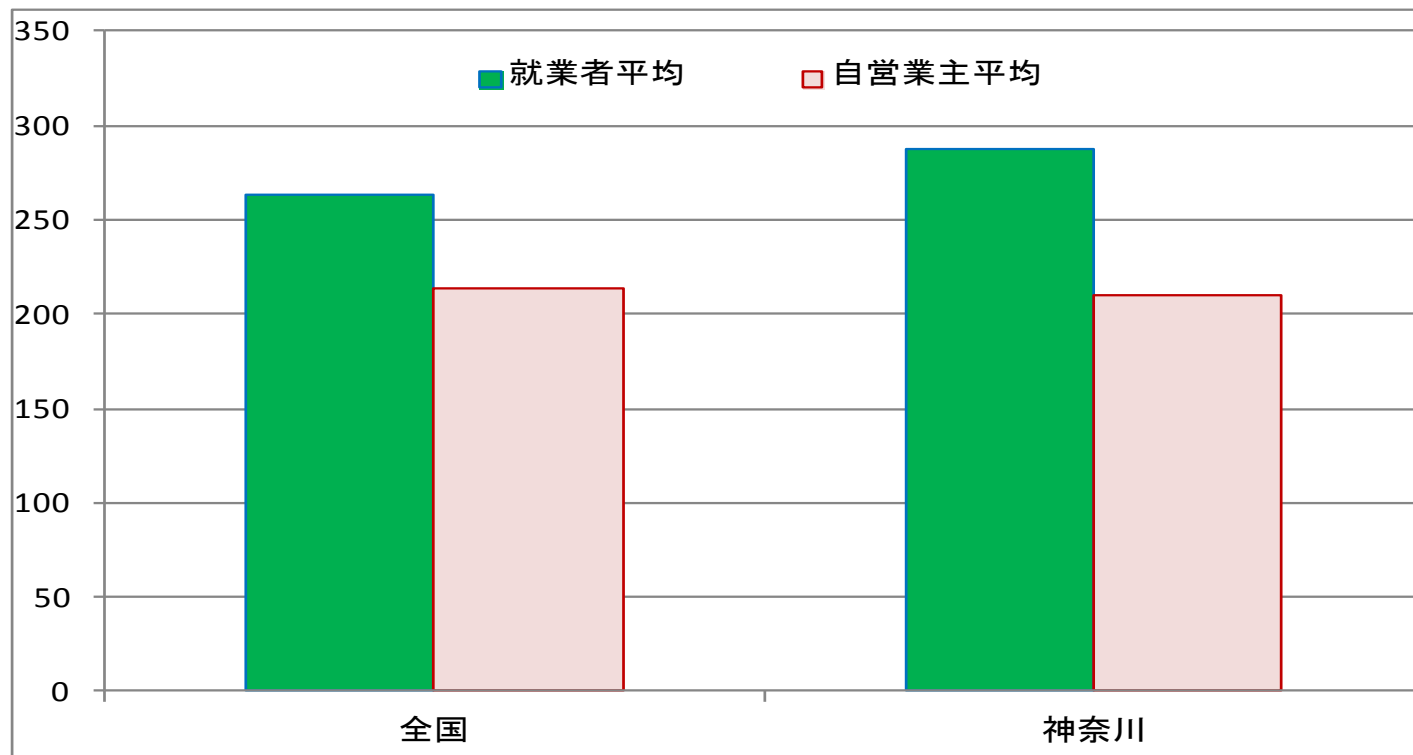
### (4) Return～金銭的、非金銭的な見返りが少ない～

31

#### ① 期待収入

- 若者の自営業者の平均所得は、就業者のそれと比べ見劣り。特に、神奈川県では就業者の平均所得が高いことからその差が大きい。

若者の就業者と自営業主の平均所得の比較(全国・神奈川、万円)



(出所)総務省「就業構造基本調査」(1992-2012年データ)

## Ⅱ. 若者の起業の障害となっている主要要因

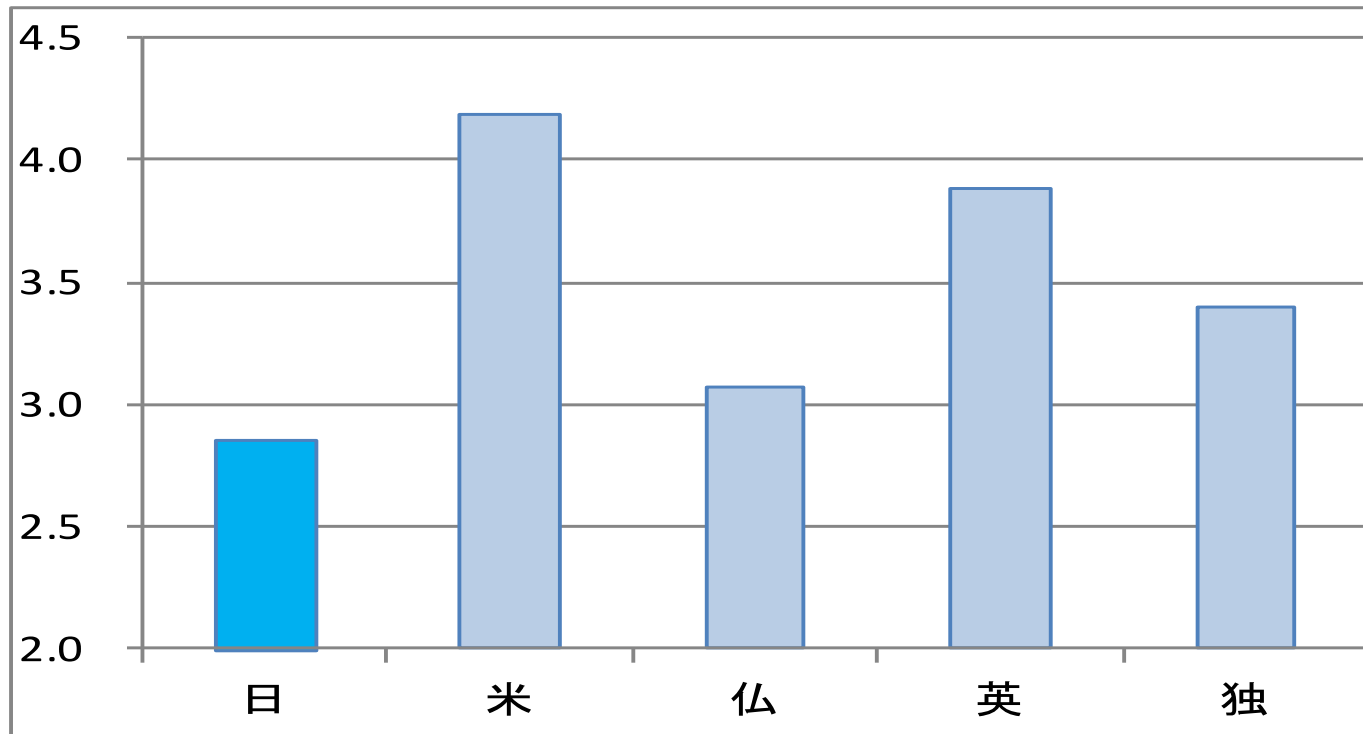
### (4)Return～金銭的、非金銭的な見返りが少ない～

32

#### ②社会的評価

- ・ 起業家に対する社会的評価も決して高くない。

起業家が尊敬されているか(5段階評価)(2011年)



(出所)Global Entrepreneurship Monitor NES (2011年データ)



# Ⅲ. 起業支援のための社会環境づくり (対応メニュー例)

33

**1 Entrepreneurial spiritの醸成**

**2 Riskの低減：やり直しのきく社会システムの構築**

**3 Resource面での支援の充実**

**4 Returnの引上げ**

# Ⅲ. 起業支援のための社会環境づくり

## (1) Entrepreneurial spiritの醸成

34

### < Entrepreneurial spiritの醸成に向けた具体的な施策例 >

- ① 起業家との「出会い」づくり(小中学校等)
  - 学校現場における起業家との「出会い」づくり
  - インキュベート施設を活用した起業家と出会いのイベント開催
- ② 起業体験(高校)
  - 文化祭における起業体験
  - ビジネス系コンテストへの積極的な参加
- ③ 実学重視の教育(高校・大学)
  - インキュベート施設を活用した起業家との交流
  - 起業家育成プログラムの促進
  - 一般教養課程における起業家教育

## Ⅲ. 起業支援のための社会環境づくり

### (2) Riskの低減: やり直しのきく社会システムの構築

35

事業が失敗した際の「セーフティ・ネット」の充実

⇒行政: 総合的な起業支援策(セーフティ・ネットの策定)

職業訓練手当

起業経験者の就職・再就職支援 等

参考: デンマーク・オランダ「フレキシキュリティ政策」  
イギリス「トランポリン型福祉政策」

※ これらの施策は、「起業の活発化」そのものを目的とした施策ではないが、これにより、失業者(起業に失敗した者も含む)が早期に労働市場に復帰できる環境が整備されており、結果的に起業も活発化している。

# Ⅲ. 起業支援のための社会環境づくり

## (3) Resource面での支援の充実

36

### (1) 金融面

**「不動産担保に頼る融資」からの脱却が必要**

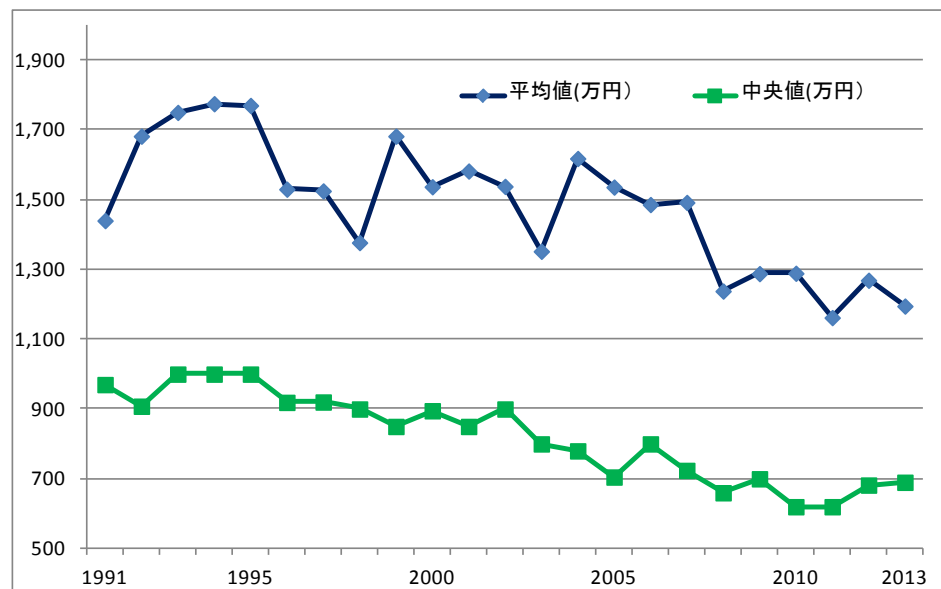
⇒金融機関:事業計画の重視、地場企業の積極的支援等

⇒行政その他:クラウド・ファンディング等による資金調達の普及等

・起業に必要な資金の額は徐々に縮小

・行政による利子補給策の充実の必要性は薄れていくものと見られる。

開業費用の推移



(出所)日本政策金融公庫総合研究所『新規開業白書(2014年度版)』

# Ⅲ. 起業支援のための社会環境づくり

## (3) Resource面での支援の充実

37

### (2) ノウハウ面

#### ○ 県内起業支援情報の一元的提供

- ・ 県内各支援機関の起業支援にかかる情報を一元化。
- ・ 地域別、目的別に検索可能なかたちでイベント情報などを提供
- ・ 県・市町村等関係機関で協力しつつ、当サイトを積極的に紹介

#### このほか

- ① 起業時に実際に直面した法令上の問題や起業の失敗経験等をまとめた事例集の作成
- ② 支援組織が起業促進イベント等を開催する際の会場の紹介
- ③ 若者の起業の拠点として、起業希望者が起業家や専門家等に日常的に交流・相談できる場の用意も有用と考えられる。

# Ⅲ. 起業支援のための社会環境づくり

## (3) Resource面での支援の充実

38

### (3) 販路面

#### ○ 県版『若者起業ブランド』の認定

- ・ 県内の若者起業家の事業・商品等を、一定の基準に基づき県が認定
- ・ 認定した事業・商品や活動状況をマスコミ、県HP等で積極的に紹介
- ・ 県自身が、積極的に認定企業の商品・サービスを調達し、その旨を対外的に公表。

# Ⅲ. 起業支援のための社会環境づくり

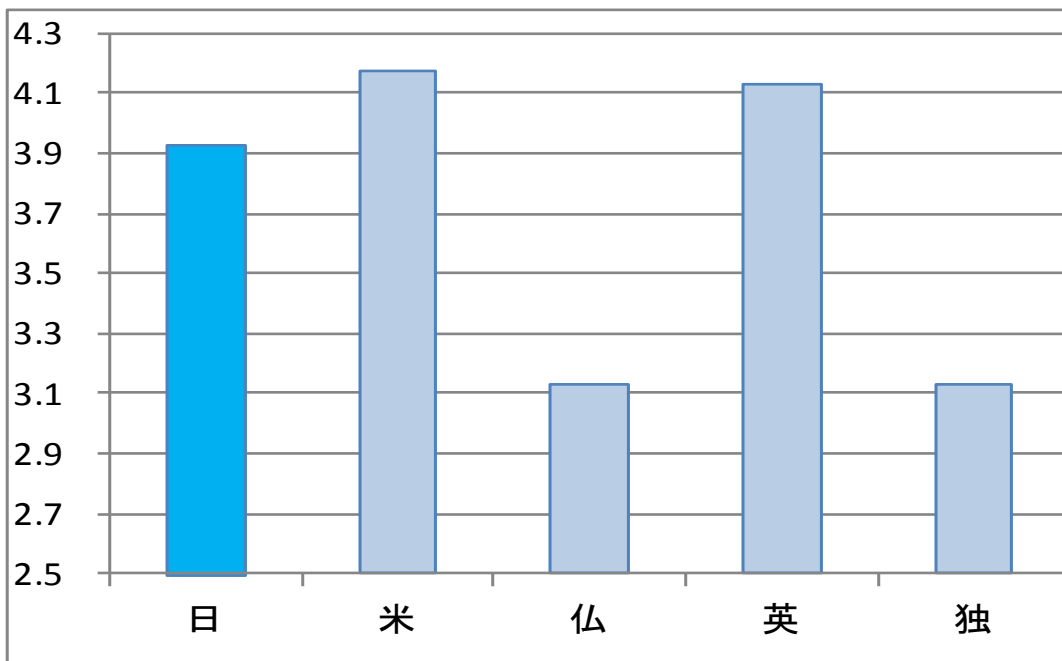
## (4) Returnの引上げ

39

### ○ 起業しやすい制度づくりと起業家のイメージアップ

- 起業手続きの簡素化や税制面での優遇措置
- 起業のイメージアップに向けたメッセージの積極的な発信

メディアで起業家について積極的に報道しているか



参考：フランス「個人事業主制度」